



廃校舎を利用した多彩な取り組みが行われているきらり水源村

NP O法人きらり水源村では、廃校舎を活用した地域活性化の取り組み、新規就業支援について学んだ。水源地区は、市の中心部から東に7 kmの中山間地帯にあり、338世帯が農林業を中心に生計を立てている。平成12年に地域の東中学校が閉校になり、地域でその活用方法を検討し、併せて基本計画を策定した。平成15年から18年まで計画的に校舎を改築し、研修棟・宿泊施設・体

- ◆【視察研修先】熊本県菊池市 宮崎県西米良村
- ◆【視察研修テーマ】NP O法人きらり水源村について
- ◆西米良型ワーキングホリデー制度について
- ◆西米良村の一次産業の振興について

育館・浴室・野外グラウンド施設等を約2億円かけて整備した。当初はNP O法人九州、沖縄子ども文化芸術協会に委託していたが、その後NP Oきらり水源村となり、菊池市と指定管理制度を利用した運営をしている。月ごとの多彩な体験プログラムや、担い手育成事業などを通じ、年間来館者3万人、宿泊者1,700名、食堂利用者5千人と、地域に溶け込んだ活動や、空き家を改築し、新規担い手の定住を進めるなど、活発な活動を行っている。当初は外部のNP Oの力を借り、その後全国からボランティアや支援者などと共に運営をしている。菊池市は、年間30万人の観光客が県内外から訪れ、近年は韓国・中国の都市との友好都市提携をしており、中学生のホームステイ交

流も進められ、水源村にも県内外から体験やボランティアが訪れている。日常では得られない価値を見出し、新たな方向に向かいながら、活動が確実に拡充されていると感じた。西米良型ワーキングホリデー制度（ワーキングホリデー）とは、国と国との契約に基づき、若者が海外で働きながら滞在する制度）については、人口減少、過疎化が進む中、定住人口、交流人口の増加と豊かな村づくりを基本に8つの庄づくり建設プロジェクトを創設して新しい村づくりを始めた。参加者は仕事（軽作業）を手伝って報酬（時給653円）を元手に宿泊費、食費等に充て、長く滞在してもらおう。小川作小屋村や温泉施設キャンプ場など、多彩な施設を整備。全国から参加者多数。不自由な中でも、きめ細やかな支援と西米良なりの幸せ感を創出する村づくりを、皆で生き生きと取り組ん

でいる。西米良村の一次産業の振興については、ゆず・カラピーマン・ほおずき・椎茸・和牛繁殖・米良糸巻き大根等、昔からの産物を作っている。高齢化、後継者不足と傾斜地のため、管理不足となってきたっており、担い手対策として、受託組織の設立、新規参入者、異業種からの参入を検討している。また、野生獣（鹿、猪、猿）の被害が増加しており、対策に苦慮している。急峻な地形に田畑が点在しており、作業効率が悪く、高齢化などにより労働力が低下している中、生産基盤や道路の整備を進め、安全で効率的な作業ができるよう取り組んでいる。このように厳しい中であっても、行政と村民が一体となって取り組み、1人ひとりがいきいきと暮らしている。古き時代、菊池氏が500年にわたり米良一帯を統治。菊池の精神が今でも力強く受け継がれていた。

# 産業建設常任委員会行政視察研修

日程 平成25年8月21～23日



# 市民の声を市政へ

## 市へ要望書を提出

4月23日から25日までの3日間、市内9会場で平成25年度「市民と議会との春の懇談会」を開催しました。131人（うち女性24人）の市民の皆様にご参加いただき、138件の貴重なご意見やご提言をいただきました。一班から三班までの各班の皆様から頂いたご意見ご提言をまとめ、議会運営委員会で慎重に検討・協議し、市長への要望書案として7月23日に議長はこれを遠野市議会として市長に要望しました。要望内容の主なものは次のとおりです。

### 要望事項

1. 農作物等に多大な被害を与えている鹿への対策については、農作物においては、

2. 市内の高等学校の

年間1億円を超える鹿被害が発生しており、また、山林においても植林した苗木だけでなく、立木も被害を受けている状況にある。農家においては、補助事業により電気柵で対応しているが、十分とは言えない状況であることから、次の通り要望する。●電気柵等による防除対策も重要ではあるが、抜本的な対策として有害駆除の実施が必要であることから、市において中長期的な計画により、駆除の実施に取り組みきたい。●広域的な対応策が必要なことから、県及び近隣市町と連携した対策に取り組みきたい。●当面の農家の自衛手段として、電気柵に頼らざるを得ないが、補助制度の周知の徹底及び資機材の適期対応に取り組みされると共に、防護ネットも対象にするように、補助制度の拡充等を検討されたい。

### 市民からの提言

1. 景観づくりについて

宮守インター開通時、鱒沢地域づくり連絡協議会で話し合った時に、桜の植樹の話をした。遠野に入った瞬間に見えるという景観づくりはどうか。2. SL運行のPR等の取り組みについて SL事業のPRを兼ねてとのことだが、JAと連携して出荷する野菜などのパックにシールを張って貰えば、消費地の各世帯にどんどん流れていくのでは。もし遠野という名前前で野菜の付加価値が高くなるのであればもっと嬉しい。JAと

色々と協力すれば、自然に流れていく方向が出てくるのではないかとと思う。農家の為にもなるし、市のためにもなる。3. 農業機械の導入について タフ・ビジョンに現在取り組んでいるが、取り組みの中心農家は4ヘクタールがほとんどだ。その人たちが機械を導入して企業なみのことを行っている。農地の集積に市が係わり推進しているようだが、集落営農でやるのであれば機械の導入も分かるが、集落ごとの農機具の所有状況調査をするなど、もう少し慎重に進めていった方がいいと思う。4. バイオマス発電について バイオマス発電については、市では必要性を認識しているということだが、チップ材が山にあるのでこれを活用すべきと思う。電気は売電し、熱量はハウス施設で野菜作りをするようなことを真剣に考えてほしい。